

# 平成29年度 中流左岸地域協議会会議録

## 淀川河川公園中流左岸地域協議会の議事録

中流左岸地域協議会の記録として、議事録を作成した。

### 1. 平成29年度 中流左岸地域協議会の議事録

#### 1) 中流左岸地域協議会の議事録（全文版：質疑部分）

#### 1. 開会

#### 2. 出席者紹介

【地方自治体】委員名簿の充て職が間違っている。水・みどり室の室長ではなく課長なので訂正して頂きたい。

【地方自治体】里山みどり課はなくなっているので訂正願いたい。

【地域住民代表】佐太五番連合町会なので訂正願いたい。

#### 3. 議事

##### (1) 淀川河川公園 中流左岸地域協議会 設置要綱改訂について

(資料1：事務局による説明)

##### (2) 淀川河川公園地域協議会について

##### (3) 他の地域協議会における検討状況について

(資料2：事務局による説明)

【学識経験者】協議会が行われなかった4、5年間の間に制度的に大きく変わったものがあり、河川協力団体の制度が河川法の改正で3、4年前に制度化され、既にいくつかの団体が指定を受けている。公園の管理や整備と河川協力団体との接点は何かあるのか？既に公園の管理の一部を河川協力団体が担いたい等の要望はあるか？

【公園管理者】今のところ公園の中までやりたいという意見は頂いてない。河川協力団体の制度は基本的には河川空間を管理するための制度で、もし公園の方までということになると制度的に整合がとれるか検討が必要になる。

【学識経験者】制度的には別ということを知っているが、それが望ましいとは思っていない。もう少し河川管理と公園管理が一体的なものになると一層有効になると思う。今のところ申し出はないというが、募集しないから、応募がないという事だと思う。募集すればやりたい団体がいくつもあるかと思う。そういう方法も考えて頂けたらありがたい。

【公園管理者】河川協力団体が公園の管理ができるという位置づけにはならない。河川協力団体が公園をという場合には、制度を2重分けにして2つの顔を持てるようにするとか整備していくように思う。まだ、事例がないので正確なことは申し上げられない。

【利用団体代表】制度の話は非常に微妙で、市民参加を進めるという意味では、河川協力団体が良いと思う。河川協力団体というのは協議会が発足した元になった河川整備計画あるいは河川公園の再自然化というような流れの中で、協力団体が協力していると思う。点野野草地区は公園区域と河川区域が一緒になっているところなので、まず実施して行きながら経緯を見て行って、澤井副会長が言われたような方法も検討していくのが良いと思う。今までは公園のゴミやタバコを拾い、愛護団体と言われていた。市民が集える空間としての公園を市民の提案で、整備していくという流れの中で収めていくのが良いのかと思う。

【学識経験者】中流左岸のことではないがイワダレソウが導入された所は上手くいっているのか？

【公園管理者】交通量が多く、道路の管理が手間であった。路肩の雑草が丈の高い草が生えて人が横断すると人が見にくいとか、反対に人からも車が見えにくく、安全性が担保されていなかった。伸びても4、5cmくらい草丈の低いイワダレソウを人が渡る所に植えた。当初雨が降ると水で土の部分が流されたりしたけれども、今は繁茂して土も治まってきている。川側については増水したときに流されるので、まだイワダレソウでは安全に対する担保が出来ていないため、改良芝を植えている。

【学識経験者】地域住民の方にとって公園はいかがか？

【地域住民代表】淀川は子供の頃の遊び場だったが、今はあまりにも整備されすぎて、自然があるのか、ないのかわからない。地域の方が今年の夏には盆踊りをやりたいというような話があったが、それに伴う公園の設備を利用できるかどうか、分からない。どこに行っても設備を利用させてもらえるのか全くわからない。利用せよ利用せよというなら、利用方法をきちんと整備して頂かないと、なかなか地域としては利用しにくい。ここで寛平マラソンをやると思うが、堤町は騒音とか人ごみで迷惑ばかりこうむっている。何かあったら騒音がわーと聞こえる。僕らの子供の頃は元々遊び場で、市にそれぞれの遊び方があったが、今は平田小学校の先生は危ないから遊びに行くのは禁止している。公園に水があり国道があるから危ないということで、ほとんど子供の姿はない。何のために公園が整備されているのか？これだけ整備されているが、地域のものなのか、誰のものなのか全くわからない。その辺をもう少し改善して頂きたい。今はお年寄りのウォーキングをされているくらいではないか。

【地域住民代表】どんど祭りを町会として行っているが、学校や家が密集して、灰が飛ぶ、洗濯物が黒くなるとかの問題があり、空間がなくて非常に困った状況が続いている。30年前は堤防で祭りをしていた。ところが火を使ったりしてはいけない等で、使えなくなった。町内で弊害が出ているので、淀川河川公園の広い高水敷は地元の町会に利用できやすいように考えて頂けたら、もっと一般の市民が頻繁に足を運ぶのではないかと。僕も朝堤防を歩いているがジョキングや少年野球やパターゴルフ等決まった人以外はほとんど利用されていない。市民の目線で、利用できるようにして頂けたら

ありがたいと思う。

【公園管理者】子供が川に近づいてはいけないと言われていたという、そういうご意見はお聞きしている。堤防と広い平地があってその先、水が流れる所が段になっていてなかなか水辺に親しみにくい構造になっている。今計画しているのは段になっているところをなだらかな勾配にして、切り下げて川に親しめるような空間を造って行くことを考えている。今回は点野地区だけだが枚方地区も同時にやると、上手くいけばいいが、失敗する事案も出てくると思う。点野で先進的に事業を進めて、その後他の地区にも水辺に親しめる空間を造って行きたい。学校にも水を使った学習等、小さい頃から川は危ないけれども楽しめる所という事を教育して頂いて、河川や自然を味わって頂きたいと考えている。公園利用の手続きとしては、淀川河川公園のパンフレットの裏面に連絡先が載っており、守口サービスセンターに問い合わせてもらえば説明させて頂くので、ご利用をお願いしたい。

【公園管理者】持込イベント等、近隣に迷惑がかかるということで、事前に持ち込まれる方々と協議している。そのあとに地元からのお声があったということであれば、次回実施するとき反省を踏まえて、いじっているのが実態である。配慮はしているが、そういう声があった場合には公園管理センターの方に具体的に情報を頂ければ何らかの工夫はして行きたい。利用しやすさについては、最近公園のHPを改定し、一般的な手続きについては前よりはわかりやすく記載している。電気や淀川河川公園の場所が使えるかという点では情報が細かいので、窓口対応で案内させて頂くのが良いと思っている。学校の連携についてはいくつかの地区でやっているが、使って頂けるような調整は地道に続けて行きたいと思っている。

【利用団体代表】昔遊んだ場所が無くなって都市公園みたいな形になってきている。そのことに対して地元はおおいに歓迎していると思っていた。我々は、自然再生をしようとするとうちから怒られると思っていた。ところが目の前にある公園なのに、他地域からの野球の人はくるけれども、直近の地先の我々は一つも楽しめない、迷惑しているという話を聞いた。今は川と人との関係を強めると言っているが、市民一般と強めるのが一つの面でもう一つは地先の地元の住民と川をつなぐ。住民と川をつなぐという事をやっていかなければ地域づくりにはならない。そういう面について前に進めるようにして頂きたい。一方、自然再生を進めるものにとっては、危ないからフェンスを作れということでは街中にある川と同じようになってしまって、自然がなくなる。そういうことに配慮していくことが今後の課題と感じた。迷惑施設だと住民に言われたことをよく覚えている。

【地方自治体】渚地区でかなりの伐採をしている。枚方地区の市民からはあまりにも切りすぎている、緑を守ろうとしているのかつぶそうとしてるのか？という声があった。市民にとっては河川公園も枚方市の公園も一緒なので市に言ってきている。事前に情報がなかったので説明できなかった。問い合わせをすると、支障木を切っているという話だったが、高木の扱いでどういう計画を持っているのか知りたい。植生は自生しているものばかりなのか？市民に説明できなかったのも、また今後の植生の計画を知りたい。

【公園管理者】一般の方からは公園と河川で、国なのか市なのか非常にわかりにくい。底地が全体河川で、その中に国が管理する国営公園とか国の公園部局、河川自体は国の河川部局になる。そこに国

営公園、あるいは各市が管理する公園や運動場がのっかっているのが実態である。植生の管理計画は国営公園については基本的には各地区別整備計画に位置付けられているものになる。もっと大きいレベルで基本計画の中に3つのゾーニングがある。この中には多目的に使う空間と、基本的には手を加えない空間と、その中間ぐらいというのがあって参考になる。それ以外、国の設置する公園になっていない部分については国の河川部隊が管理するエリアで、基本的に木を植えようということはない。木は水を流下させるときに支障になるものなので、治水的にはない方が望ましいということが前提となっている。全部切るわけではないが、流下上、治水上問題になるところから、優先順位を付けて管理の方で対応している。最近では枚方市内の樟葉、渚の辺りはいろいろお声を頂いているということを河川部隊の方から聞いている。所内でも大きく切る場合は地元や野鳥の会に話をしたほうが良いという検討をしている。

【学識経験者】河川部隊のいないところで言っても仕方ないが、公園以外の区域では基本的には樹木がない方が河川管理上望ましいというところだが、費用的に全部伐ることが出来ないのも、伸びすぎている樹木がほうぼうに見られると思う。それを切るときに、今のやり方というのは治水上の効果を期待してということと、まとまって切った方が費用節減になるということで行われているのではないと思う。何本かに1本切っていくというやり方の方が自然環境の保全上は絶対良いはずだが、それをやると非常に手間がかかる。切るときにはかたまって切ってしまう。野鳥に関する人だとひどいやり方をしているということになってしまう。そこを出来るだけ計画的に5年に1回くらいの頻度ですこしずつ小さいかたまりで伐って行く方法が出来ると良い。

【公園管理者】聞いている限りでは野鳥の会にも相談をしていて、切る時期を調整したり、切り過ぎない等、一定の配慮はしているかと思う。よりきめ細やかにということ河川部隊に伝えておく。

【利用団体代表】昔はワンドがあって葦しかなかった。木はほとんど大水の時に幼木の段階で流れてしまう。それが河川の本来の自然であった。ダムが出来たり水位調節したりするなかで、大水が攪乱を起こさない結果として木が伸びていってしまった。川の市民稼動してるものにとっては本来の川の自然を取り戻したい。それには葦原等が望ましい。ところが一方では皆さんの住んでいるところの自然がなくなってしまって、鳥も川に来ないと生きられない現状もある。自然を守ろうとしたら川の中の樹木も一定数、残さずを得ないというのが現状である。2つの面があってそれを上手く調整して進めていくことが必要である。市民の人にも切らないと流水障害で洪水が起こってしまう等、説明していかなければならない。

【学識経験者】外来種のナンキンハゼは駆除した方が良い。勝手に駆除してしまうのではなく、コミュニケーションをとりながらやっていかなければならない。この協議会が役立てば良いと思っている。

#### (4) 点野野草地区の公園整備について

【学識経験者】この協議会としては、中流左岸域全体として点野野草地区をどうみていくのか？枚方市・寝屋川市・守口市にまたがっている、その中で特に親水性で市民参加が進んでいるところで、点野野草地区が取り上げられた。さらに枚方市や守口市にどう波及していくのか？同じように枚方市や

守口市にも作るのか？あるいは広域化して点野野草地区に人が集まってくるような仕組み作りなのかを考える時期に来ているとも思う。地域の感想をお伺いしたい。

【地方自治体】非常に先進的で、地元の機運も盛り上がってきている取り組みであり、地元市としては歓迎している。中部左岸域協議会としては3年ぶりの開催で行政としては参加できていないが、整備の実現も視野に入れたところまでできているのがありがたい。今後の課題としても行政とか学校や企業の連携だが、地元市として取り組みにできるかぎり参画させて頂きたい。みどりの基本計画の改訂作業を進めており、今年度来年度2ヶ年で取り組んでいる。今後どう生かして保全を進めていくか、既存の活動を通して取り組みを広げて行きたい。

【地方自治体】ワークショップが進められているところで、役割分担が重要かと思う。市民、管理者、行政、企業というところで、われわれ行政はどういった役割をしていかなければならないのか、公園部局なのか他の部局なのか進めていくうちに見えてくるのかと思っている。枚方市の都市公園でもワークショップを開催しているが、その中で整備の部分、市民の方がどういったルールを作ってどういった保全維持管理にも協力して頂けるかという形のワークショップを今後進めて行こうと思っている。今回の報告は参考になる内容であった。

【地方自治体】守口市内の東地区に昔掘り下げたワンドがあり、外島地区と公園が併設している。堤防を降りたらすぐ小学校があるような場所もある。点野地区のような整備を守口市でもやっていたら、利用箇所として将来的には良い提案だと思う。ワンドについては川が台風などで増水して浅くなってきている。将来的な事を考えていかなければワンド自体がなくなるのではないかと思う。

【地域住民代表】よく遊んでいたのはワンドよりたまりの方である。淀川は年に3、4回増水するので、8月の終わりには水が減ってきて、ワンドはなかなか魚が採れないが、たまりは魚の逃げ場がないので、石の底にいる魚のつかみどりが出きる。点野地区の方はワンドよりたまりに注目されたのが成功したと思う。ワンドは常に水が行き来しているので危ないが、たまりの方が水を完全にシャットアウトする。子供がたくさん行っても安全だと思う。ワンドよりたまりを作っていたらと思う。大きな石を引きしめてもらえたら魚の住処になるので、そこで魚の手づかみをする。子供の頃のような遊び場のような形で点野地区は上手くやっていると思う。

【地域住民代表】非常にきめ細かい形で利用方法なり、発展の仕方が書かれているが、危険と表裏一体ということが言える。改革するのはいいが子供の事故とか、警備体制などをプラスアルファしないと安全フォローをもう少し考えていかなければならない。

【学識経験者】自然再生というだけではなく、自然を利用する場所、収穫、ふれあうプロセスが必要である。モニタリング等で目標にする魚などをたてて活動すると引き締まる。上手くいってもいなくても理由を考えることで勉強になる。皆で目指す目標を次回のワークショップで考えて頂きたい。ワークショップを進めていく上で、今後の課題の見通しはたっているのか？

【公園管理者】ネットワーク化の課題については寝屋川市の方でみどりの基本計画の改訂などをされていて、そこに我々の取り組みも書き込んで頂けないか調整している。教育団体の部局とも取り組みの紹介をさせて頂こうと思っている。意見交換をして協力関係を組めるかどうかトライしたいと思っている。企業についても、いくつか当たっているところがあり、どうやってかわるか、企業にとってのメリット、活動日などについても情報を頂いている。どんどん拡大していくための準備をしている段階。活動拠点のあり方については、洪水時期の中の空間になるので大きいことはできない。堤防内側にあるサービスセンターを使うか屋根を付けられるような仮設などを検討したいと思っている。維持管理モニタリングの体制については、まだ弱くてこれからだと思っている。モニタリングについて目標とする種の設定等、順応的管理については前回のワークショップで話を始めた状態なので、来年度以降の特に大きな課題と思っている。安全管理については前回のワークショップで国からの思い、皆さんの思いも出して頂いた。結論を出すのは難しいので来年度以降、事例の勉強もしつつ、設計に入って行きたいと思っている。

【学識経験者】理想的には毎日子ども達がやってきて、散歩する人が憩えるようになればよいが、安全管理等の問題もあるので当面はイベント企画をできるだけ頻繁にやって行きたいと思っている。既にイベントを行っているが平成30年度8月4日、5日に近畿水環境交流会を計画したいと思っている。これまで長年続けている寝屋川市独自の淀川まるごと体験会を、広く淀川水系のいろいろな団体の方には声を掛けて来ていただこうと思っている。この時は整備も何も進んでいないが現状の砂洲・ワンドをどういう利用ができるかという事をトライアルしてみたい。

#### (5) 平成29年度 台風被害及び復旧状況

【学識経験者】台風の被害は何年に1回くらい起こるか？

【公園管理者】前は平成25年の台風18号が新しい。4年に1回くらいは水がついている。27年度も枚方地区は若干水がついたが、これほどの被害はなかった。

#### (6) その他

【地方自治体】上流域で紹介のあったさくらであい館は利用させてもらっているが、利用状況を教えて頂きたい。

【公園管理者】平日はサイクリング、地元の方が来る。交通の便がいいのでそこで休んでいかれる方も見受けられる。平日は地元中心で週末になるとより遠くから繰るような気配を感じている。月1回地元のを扱うマルシェでは千人近くは入っている。他には部屋が4つあり、大きい部屋では休憩所になっており、3つの部屋は行政の方や地元の方に使って頂いている。

【地方自治体】今後、淀川河川公園開設面積の拡大が計画であれば教えて頂きたい。

【公園管理者】 国営公園の整備プログラムを 5 年に 1 度作っていて今の計画は平成 32 年の計画までになっている。その中で点野守口、上流域などについて書いている。枚方市内では明確に開園するという位置付けはない。

【学識経験者】 公園区域と河川区域の調整をして、地元の方に上手く利用して頂ける様な体制・整備が重要との指摘があった。点野のワークショップは概ね好意的であった。提案を踏まえて今後展開して頂きたい。

#### 4. 閉会

#### 5. 今後の予定